

2014年5月7日

各 位

本店所在地 東京都港区東新橋一丁目9番1号
会 社 名 ソフトバンク株式会社
(コード番号 9984 東証第一部)
代 表 者 代表取締役社長 孫 正義

2014年3月期連結業績と前期および業績予想との差異に関するお知らせ

2014年3月期(2013年4月1日～2014年3月31日)の連結業績と、前期(2012年4月1日～2013年3月31日)および2014年3月期第2四半期決算短信で公表した業績予想との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2014年3月期業績と前期業績および業績予想との差異

	売上高	営業利益	税引前利益	純利益	親会社の所有者に帰属する純利益
前期実績 (2013年3月期)	百万円 3,202,536	百万円 799,399	百万円 715,504	百万円 437,837	百万円 372,481
業績予想	6兆円以上	1兆円以上	—	—	—
今回発表実績 (2014年3月期)	百万円 6,666,651	百万円 1,085,362	百万円 932,367	百万円 586,149	百万円 527,035
前期実績比の 増減率	% 108.2	% 35.8	% 30.3	% 33.9	% 41.5
業績予想比の 増減率	% 11.1	% 8.5	—	—	—

2. 差異の理由

2014年3月期の連結業績と前期実績との差異の理由については、以下の経営成績に関する分析をご覧ください。2014年3月期の売上高が業績予想を大幅に上回ったのは、2014年1月30日にBrightstar Corp. (以下「ブライトスター」) を子会社化した影響に加えて、ソフトバンクモバイル(株)の売上高が携帯電話契約数と携帯端末販売数¹の増加に伴って見通し以上に増加したことなどによるものです。

¹ 販売数：新規契約数と機種変更数の合計値。

経営成績に関する分析

(a) 売上高

売上高は6,666,651百万円となり、前期と比較して3,464,115百万円(108.2%)増加しました。これは主に、第2四半期より新たに加わったスプリント事業で、2,601,031百万円の売上高を計上したことによるものです。このほか、移動通信事業の売上高が前期と比較して819,888百万円増加しました。これは、2013年4月にガンホー・オンライン・エンターテイメント(株)(以下「ガンホー」)、同年7月に(株)ウィルコム、同年10月31日にSupercell Oy(以下「スーパーセル」)、2014年1月30日にブライトスターを子会社化した影響に加えて、ソフトバンクモバイル(株)の携帯電話契約数と携帯端末の販売数が増加し、サービス売上(主に従来 of 通信料売上)と物販売上(主に従来 of 携帯端末売上)がいずれも増加したことなどによるものです。また、2013年1月に子会社化したイー・アクセス(株)の売上高が通期で計上されたことも、売上高の増加要因となりました。

(b) 売上原価

売上原価は3,953,170百万円となり、前期と比較して2,342,328百万円(145.4%)増加しました。これは主に、第2四半期よりスプリント事業が新たに加わったことによるものです。このほか、ガンホー、(株)ウィルコム、スーパーセルおよびブライトスターを子会社化したことや、ソフトバンクモバイル(株)でiPhone²をはじめとするスマートフォンの販売数が伸び、商品原価が増加したことも、売上原価の増加要因となりました。また、2013年1月に子会社化したイー・アクセス(株)の売上原価が通期で計上されたことも増加につながりました。

(c) 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は1,826,575百万円となり、前期と比較して1,032,502百万円(130.0%)増加しました。これは主に、第2四半期よりスプリント事業が新たに加わったことによるものです。このほか、ガンホー、(株)ウィルコムおよびスーパーセルを子会社化したことや、ソフトバンクモバイル(株)で販売手数料が増加したことも、販売費及び一般管理費の増加要因となりました。また、2013年1月に子会社化したイー・アクセス(株)の販売費及び一般管理費が通期で計上されたことも増加につながりました。

(d) 企業結合に伴う再測定による利益

企業結合に伴う再測定による利益は253,886百万円となり、前期と比較して252,108百万円増加しました。ガンホーおよび(株)ウィルコムの支配獲得時に、当社が既に保有してい

² iPhoneはApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

た両社に対する資本持分を公正価値で再測定したことに伴い、150,120 百万円と 103,766 百万円をそれぞれ計上しました。

(e) その他の営業損益

その他の営業損益は、55,430 百万円の損失となりました（前期は計上なし）。これは主に、減損損失 32,090 百万円のほか、スプリントにおける人員削減関連費用 18,307 百万円を計上したことによるものです。

(f) 営業利益

(a)～(e)の結果、営業利益は 1,085,362 百万円となり、前期と比較して 285,963 百万円 (35.8%) 増加しました。

(g) 財務費用

財務費用は 271,478 百万円となり、前期と比較して 206,181 百万円 (315.8%) 増加しました。これは主に、スプリントの支払利息が加わったほか、ソフトバンク(株)の社債および借入金の支払利息が増加したことによるものです。

(h) 持分法による投資損益

持分法による投資損益は 74,402 百万円の利益となり、前期から 78,065 百万円改善しました（前期は 3,663 百万円の損失）。これは主に Alibaba Group Holding Limited に係る投資利益 66,780 百万円を計上したことによるものです。

(i) その他の営業外損益

その他の営業外損益は 44,081 百万円の利益となり、前期から 59,016 百万円改善しました（前期は 14,935 百万円の損失）。

- i. 関連会社株式売却益は前期から 32,221 百万円増加し、33,058 百万円となりました。これは主に、2013 年 12 月に PPLive Corporation の株式を売却したことによるものです。
- ii. 受取利息は前期から 17,906 百万円増加し、21,015 百万円となりました。
- iii. デリバティブ関連損益は前期から 31,465 百万円悪化し、19,588 百万円の損失となりました。

(j) 税引前利益

(f)～(i)の結果、税引前利益は 932,367 百万円となり、前期と比較して 216,863 百万円 (30.3%) 増加しました。

(k) 法人所得税

法人所得税は 346,218 百万円となり、前期と比較して 68,551 百万円 (24.7%) 増加しました。

(1) 純利益

(j)～(k)の結果、純利益は 586,149 百万円となり、前期と比較して 148,312 百万円 (33.9%) 増加しました。

(m) 親会社の所有者に帰属する純利益

ヤフー(株)、スプリント、ガンホーなど子会社の非支配持分に帰属する純損益を(1)から控除した結果、親会社の所有者に帰属する純利益は 527,035 百万円となり、前期と比較して 154,554 百万円 (41.5%) 増加しました。

以 上

***** (本件に関する報道機関からのお問い合わせ先) *****

ソフトバンク株式会社 広報室

03-6889-2300